

第6学年 国語科学習指導案

日 時 : 令和5年 9月27日 (水)
 学 級 : 6年1組 26名
 指導者 : 尾久第六小学校 6年担任

自分の考えをもち、主体的・対話的に学びを深める児童の育成
 ～国語科「読むこと」を通して～

1. 単元名 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう

教材名 「やまなし」宮沢賢治 作 (光村図書 国語 六 創造)

2. 単元の目標

知識及び技能	・比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。((1)ク)
思考力・判断力・ 表現力等	・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(C(1)エ) ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(C(1)オ) ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(C(1)カ)
学びに向かう力、 人間性等	・表現や構成等に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとする態度を養う。 ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

3. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ク)	① 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ② 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ③ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	① 表現や構成等に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。 ② 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとしている。

4. 児童の実態

全体的に、やるべきことにとてもしっかり取り組み、どの学習にも大変意欲的に取り組む。一方で、失敗を恐れて、挑戦することにはやや消極的な児童が多いと感じている。

アンケートによると、国語の学習を好きと回答している児童は69%で、31%の「あまり好きではない」、「好きではない」児童の理由の一つには、自分の考えや、それを書いたり発表したりすることに対して自信がもてないことがあると考えられる。物語の登場人物の関係や心情をとらえることについては35%の児童が「あまりできない」と回答しており、実際には十分にできていても自信がもてない児童も少なくない。

自分の考えを友達にすすんで発表することについては、35%の児童が「あまりできない」、「できない」と回答しており、やはり自信のなさが伺える。一方で、友達の意見や感想を自分の考えに取り入れることについては、88%の児童が肯定的に捉えており、友達と交流することで自分の考えが深まる実感はもっていると考えられる。

物語を読んで読み取ったことをもとに自分の考えを書くことに対しては、80%の児童ができると感じており、どの児童も自分の力で自分なりの考えを書くことができるが、作品の内容を深く読み取って感想を書ける児童は多くはない。

自分の考えをしっかりともてないと、自信をもって交流することも、文章に書き表すこともできない。自分の考えをしっかりとるように単元構成や学習過程を工夫し、友達と考えを交流することで自分の考えが広がる面白さを体験させていくことで、国語の学習に対するさらなる意欲や自信を育てたい。

5. 単元について

本教材では、谷川の底から見た水中の世界が、「五月」と「十二月」とを対比させながら、宮沢賢治独特の色彩豊かな表現で描かれている。そこには賢治の深い自然観や生命観が込められているのであるが、ただ読んだだけでは、児童にとって、「なんだかきれい、かわいい、こわい」、「なんだかよく分からない」といった感想に終始してしまうことが予想される。

「やまなし」に込められた賢治の思いを考えるためには、賢治の生き方や考え方を理解する必要がある。そこで、資料「イーハトーヴの夢」に書かれている出来事や宮沢賢治の言動から、賢治の生き方や考え方を丁寧に理解させたい。また、並行読書を通して、賢治の作品には賢治の思いや願いが込められていることに気付かせたい。

その上で、宮沢賢治独特の言葉や表現から「やまなし」の世界を捉え、その世界を賢治の生き方や考え方と重ねることによって、賢治が作品に込めた思いについて自分の考えを形成し、交流することができるようにしたい。

6. 研究主題に迫るための手立て

(1) 単元構成の工夫（宮沢賢治の世界をとらえるために）

まず宮沢賢治の描く世界を深く理解できるようにするために、並行読書として、事前に宮沢賢治の本を読む活動を行う。6月下旬からスタートし、夏休みを含め、6冊以上読み、その中から1冊を選んでマイブックカードを作成して（夏休みの宿題）本を紹介し合う（マスタータイム）。（この時は、賢治の作品の中から興味のあるものを自由に選ばせる。）そして、「やまなし」に込められている宮沢賢治の自然観や生命観を理解できるようにするために、9月からは、宮沢賢治の自然観や生命観が強く反映されている作品8冊※の中から3冊以上を読む。それらの読書カードをもとに、「宮沢賢治はきっとこんな人」という自分の考えを紹介し合う。（マスタータイム）

そして、本文の精査に入る前に、第2、3時で資料「イーハトーヴの夢」を読み、年表にまとめながら交流を通して賢治の思いや願いを考えるようにした。その際に、全員のマイブックカードを年表に貼りながら、賢治の置かれていた状況と作品を照らし合わせることができるようにする。

第9時には、『やまなし』の読みを通した学びをもとに、それまでに読んだ本の中から一冊選んで、賢治の思いや願いが込められた作品の世界を伝えるマイブックカードを作成し、紹介し合う活動を設定し

た。

また、「五月」と「十二月」の場面の様子の対比について理解を深めるために、表現から情景を想像して2つの場面の絵を描く（第4、5時）、表現から2つの場面の様子を比べる（第6時）に分けて、「五月」と「十二月」の対比をていねいに読み取らせ、それをもとに本時（第7時）で、作者が題名を「やまなし」にした理由を考えられるようにした。

※「度十公園林」「雨ニモマケズ」「グスコブドリの伝記」「銀河鉄道の夜」「よだかの星」「竜のはなし」「双子の星」「なめとこ山の熊」

(2)学習過程の工夫（自分の考えをもてるようにするために）

初発の感想の交流では、タブレットでJamboardを活用して、お互いに全員の感想を読み、内容を分類、整理しながら交流する。それにより、自分ひとりでは思いつかなかった点にも気づき、「作品の世界をとらえる」という目標を全員の読みの方向性として見出し、主体的に取り組めるようにする。

「五月」と「十二月」の場面の様子の読み取りでは、まず自分で叙述から情景を想像して絵に表し、それを友達と交流するようにした。それによって、場面の様子を主体的に捉えて自分の考えをもち、さらに友達との対話を通して考えを広げることができると考えた。

(3)文章表現や描写に着目できるようにするための工夫

作品の世界を豊かに想像させる宮沢賢治の独特な表現（擬声語、擬態語、比喻）、色彩語に線を引き、情景を想像して本文に書き込む。さらに、それらの言葉や表現から想像した情景や感じたイメージを班で交流しながら吹き出しにして「五月」と「十二月」の絵に書き込む。そしてそれらを全体で共有することで、様々な文章表現や描写、それによって表される様子に気付けるようにする。

7.単元の指導と評価の計画

時	◆目標 ○学習内容	評価		
		知 技	思 判 表	態 度
1	◆「やまなし」を読み、感想を交流する。 ○「やまなし」を音読して、初発の感想を書く。 ○感想をタブレットでJamboardに書き込み、全員で交流しながら感想を分類・整理する。 ○「作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう」という単元の目標を確かめ、学習の見通しをもつ。			① ◎表現や構成等に注目して作品世界を捉えることに取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。 <記述、発言、行動観察>
2	◆資料「イーハトーヴの夢」を読み、出来事と宮沢賢治の言動から賢治の考え方をとらえる。 ○「イーハトーヴの夢」を読む。 ○「イーハトーヴの夢」をもとに、宮沢賢治の考え方を捉え、年表に書く。 ○年表に書き込んだ「賢治の考え方」を交流する。		②	◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 <記述>

3	<p>◆宮沢賢治が大切にしている思いや願いを考える。</p> <p>○「イーハトーヴの夢」から整理した賢治の生き方、考え方をもとに、賢治はどんな人だったのかを考え、賢治が大切にしている思いや願いを考える。</p> <p>○宮沢賢治の思いや願いについて、考えを交流する。</p> <p>○全員のマイブックカードを年表に貼り、賢治の置かれていた状況と作品を照らし合わせる。</p>		③	<p>◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。</p> <p><記述、発言></p>
4	<p>◆「やまなし」を読み、「五月」と「十二月」の様子を絵に表す。</p> <p>○作品の構成を確かめる。</p> <p>○「五月」と「十二月」の様子を絵に表す。</p> <p>○場面を描き表した絵を交流する。</p>		②	<p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。</p> <p><記述、発言></p>
5	<p>◆宮沢賢治の独特な言葉や表現をもとに、「五月」と「十二月」の情景を想像する。</p> <p>○作品の世界を豊かに想像させる宮沢賢治の独特な言葉や表現（擬声語、擬態語、比喩）、色彩語に線を引き、情景を想像して本文に書き込む。</p> <p>○言葉や表現から感じた情景やイメージを班の友達と交流しながら吹き出しにして絵に書き込む。</p> <p>○書き込んだ言葉や表現について全体で交流する。</p>	①	①	<p>◎比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。<記述></p> <p>◎人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。<記述、発言></p>
6	<p>◆「五月」と「十二月」の場面の様子を比べる。</p> <p>○使われている言葉に着目して「五月」と「十二月」を対比して書き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水や光の様子 ・生き物 ・上から来たもの ・かへの会話の様子 <p>○それぞれの場面の内容を一文で書き、それを伝え合う。</p>		②	<p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。</p> <p><記述、発言></p>
7 本 時	<p>◆なぜ宮沢賢治は「やまなし」を題名にしたのかを考える。</p> <p>○「五月」と「十二月」の場面の対比を確かめる。</p> <p>○なぜ、「やまなし」を題名にしたのかを考え、自分の考えを書く。</p> <p>○考えたことを交流する。</p> <p>○交流したことをふまえて、改めて自分の考えを書く。</p>		③	<p>◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。</p> <p><記述、発言、行動観察></p>

8	◆宮沢賢治がこの作品にこめた思いについて考え、文章にまとめて交流し、「やまなし」の世界を豊かに味わう。		
	○宮沢賢治が『やまなし』という作品にこめた思いを考え、どのような点からそう考えたのかを明らかにして書く。	②	◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 <記述>
	○友達の書いた文章を読み、思ったことや感じたことを書き記し、交流する。 ・どこを読み、どのような友達の考えが伝わってきたか ・それに対してどのように思ったか	③	◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 <記述、発言>
9	◆宮沢賢治の作品を選んで紹介文を書き、交流する。		
	○宮沢賢治の思いが込められている作品を選び、マイブックカードを書く。 ○マイブックカードを読み合う。 ○単元の学習を振り返る。	②	◎言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとしている。 <記述、行動観察>

8. 本時の学習 (7 / 9)

(1) ねらい

「五月」と「十二月」の場面を比べて読み、なぜ宮沢賢治は「やまなし」を題名にしたのかを話し合うことを通して考えを広げ、作品の世界を捉えることができる。

(2) 展開

時間	○主な学習活動	※指導上の留意点 ◎評価規準 <評価方法>
5	○前時までに読み取った「五月」と「十二月」の場面の対比を確かめる。 ○「十二月」の場面にしか出てこない「やまなし」が題名になっていることを確かめる。	
2	○本時の課題をつかむ。 ・なぜ賢治が「やまなし」を題名にしたのかについて考え、友達と考えを交流することを通して考えを広げ、自分の考えを深めること。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">宮沢賢治はなぜ「やまなし」を題名にしたのかを考えよう。</div> ○別の題名だったらどのような印象を受けるかについて考える。	※初発の感想とも関連付ける。
8	○なぜ、「十二月」の場面にしか出てこない「やまなし」を題名にしたのかを考えて書く。 ・なぜそう考えるかを含めて、自分の考えを書く。 <予想される考え> ・終わりのほうにしか出てこないやまなしを題名にしたほう	

	<p>が、「何だろう」というワクワク感がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怖い「かわせみ」よりも、「やまなし」の方がハッピーな感じがする。 ・最後はやまなしを見つけて喜んでいて平和で、そのきっかけが「やまなし」だから。 ・賢治の小さいころは食べ物が不足して苦勞していたから、自然の食べ物のありがたさを伝えたかったから。 	<p>※題名「やまなし」に賢治の思いや願いがこめられていることに気付いて書いている児童がいたら、全体で共有する。</p>
15	<p>○考えたことを班で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを出し合いながら、班としての考えをまとめる。(一つにまとめるなくてもよい。) <p><予想される考え></p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺す、殺されるよりも、やまなしのように自然のものをありがたくもらう方が良くという思いがあるから。 ・命の奪い合いではなく、食べ物があり、争わずに幸せな日々を送ったほうが良いというメッセージがこめられている。 ・自然に感謝して、命を大切にすることが大切だと伝えたいから。 ・賢治はやまなしのように、自分が死んでもみんなの役にたつものになりたかったから。 	<p>※宮沢賢治の生き方や考え方と関連付けて考えさせる。</p> <p>◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。</p> <p><記述、発言、行動観察></p>
15	<p>○班としての考えを全体で共有する。</p> <p>○交流したことをもとに、深まった自分の考えを改めて書く。</p> <p>○振り返りを書く。</p> <p>○次時では、宮沢賢治が『やまなし』という作品にこめた思いについて、自分の考えを文章にまとめることを知る。</p>	